

「総合学園 追手門学院」の キャリア教育実践にむけて（中間報告） 一貫連携教育研究所での活動報告（2015年度）

一貫連携教育研究所所員 表 弘之

1. はじめに

2008年学院創立120周年に提言された「ビジョン120」には、「追手門学院新時代を開く6つの提言」がある。その6つの提言の1つに「[心の教育]、[キャリア教育] [国際教育]を学院共通の教育目標として、具体化を図る」という文言がある。

2014年度に新たに組織改変された一貫連携教育研究所では、2015年度に新たに3人の所員の先生を迎えた。一貫連携教育研究所の目的は、追手門学院の「教育目標の具体化を図り、総合学院としての一貫教育及び学院内外の連携教育を企画・推進し、もって学院における教育・研究の一層の充実・発展に寄与すること」（一貫連携教育研究所規程 第2条 目的）である。

そこで、所員の中で役割分担を行い、「心の教育」「国際教育」「キャリア教育」の3つに分かれて研究することとなった。私の研究テーマは「キャリア教育」である。この研究テーマでの今年度前半の活動についてまとめたい。

2. 研究テーマについて

4月14日に第1回所員会議が行われ、担当分野について意見交換が行われた。その後、各担当者が原案を作り、それをたたき台にする形で、何回かの会議を経た。私のものは、最終的に5月26日の第4回所員会議の後、修正を加えた。その2年間の研究テーマについて方針を示したものが、次の資料1である。

資料1

2015. 5. 26
一貫連携教育研究所
所員 表 弘之

2015年度 研究計画 (案)

1. 担当分野：キャリア教育

2. 研究計画概要

(1) 「キャリア教育」が生まれた経緯や歴史を調べる。【調査】

- ・中教審など国の大きな方針
- ・世界の大きな教育の流れ
- ・基本文献 → 書籍費・研究費について (事務局に確認)

※ここまでの内容で、「8月6日(木) 教員全体研修」で発表する。

(2) 現在、追手門学院で行われているキャリア教育・進路学習を把握する。

- ・使用プリントや年間計画なども、あわせて情報収集する。
- ・(1)の内容についても、引き続き行う。

(3) 2016年度キャリア教育の原案を作成する。

- ・今あるものを組み替え、新しく必要なものは導入し、不要になったものは除く。
- ・高校3年間、6年間の全体計画(シラバス)を作成する。

※ここまでの内容で、「一貫連携教育研究所 紀要 第2号」に投稿する。

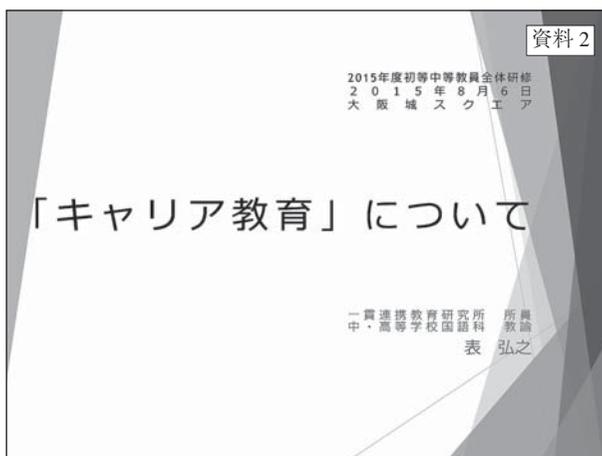
3. 学院創立130周年(2018年度)にむけて

2015年度	研究発表(研究+原案作成)
2016年度(任期2年)	研究発表(研究+実践報告)
2017年度	研究発表(研究+改善)
2018年度(任期2年)	実践発表(実践+検証)

3. 初等中等教育全体研修での発表

この研究計画について、2015年8月6日大阪城スクエアで行われた「初等中等教育全体研修」で発表を行った。その時に用いたのが、以下の資料である。

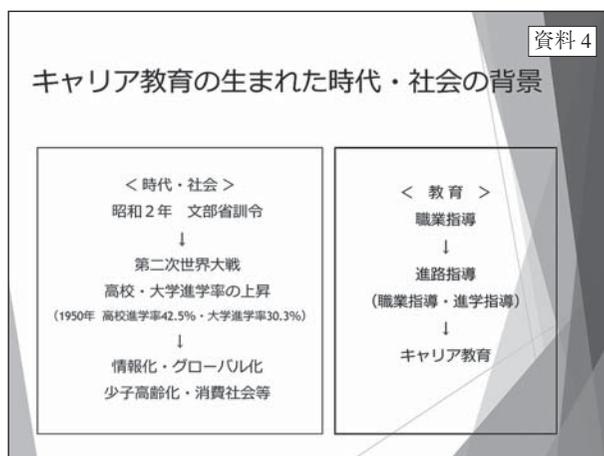
(1) 資料2・3について



「こういう時代だから、こういう教育を行う」という発想は、私には薄かった。思えば、私自身は教育大学の出身とはいえ、そこで学んだことは、「教科教育の内容」が中心であり、その他には、教育心理や教育原理などがあつた程度である。「時代と教育の対応」や「時代の移り変わりに応じた教育内容の変化」という発想を持ち合わせていなかったことはやむを得なかったのかもしれない。

余談になるが、昨年度、教員免許の更新の時期を迎え、必修単位として、「教育の最新事情」という授業を受けたが、上記のような内容に触れた授業もあり、大変勉強になった。免許更新にこういう単位を設定している意味もよく分かった。

(2) 資料4について



資料4「キャリア教育の生まれた時代・社会の背景」は非常に大雑把なまとめ方になっているが、資料3で指摘した「時代・社会」と「教育」の流れを並べて書いたものである。

現在に近い教育制度が生まれたとき、教育の重点目標に「職業指導」が置かれたことを私はまったく知らなかった。「職業指導の起源」について、簡潔でまとまった文章があったので、引用したい。

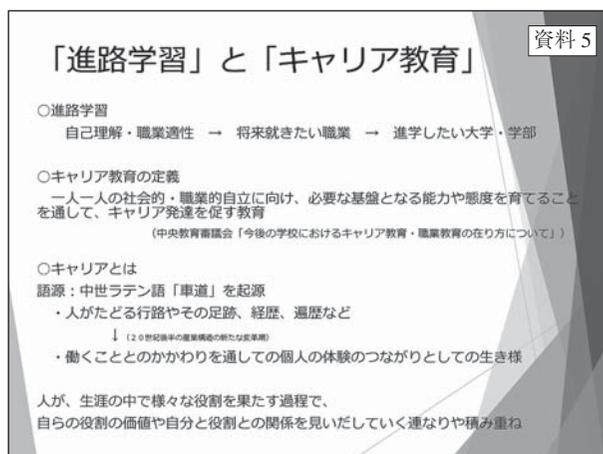
中世、あるいは封建社会の閉鎖的な身分制社会においては、上下関係が明確で世襲的な職業集団が形成され、定められた職業や家業を忠実に守っていくことが求められていた。適性によって家業を継ぐにふさわしいか否かという選択肢はあっても、自由に選択するという考え方はなかった。18世紀末には、産業革命によって資本主義経済と近代的技術が柱となって社会は大きく変化する。身分制が崩壊し、個人の自由や職業選択の自由を手にする。もちろん、すべての人に職業選択の自由があったわけではない。新しい企業は労働力を必要とし、職業指導が注目を浴びてくる中、心理学、統計学、教育学等の発達により、職業指導の研究と実践は、科学的な根拠を得て発達していくのである。資本主義経済社会には、社会的地位や性別に関係なく、自由意思に基づいて職業を選ぶことのできる実力中心主義の職業自由性が特徴の一つとして存在する。近代的技術の発達によって、失業の危機に立たされる労働者が出現したことも新しい問題となった。このように、労働者の職業生活の安定が求められる社会的背景の中で職業指導は必要とされていったのである。

(西岡正子・桶谷守 編『生涯学習時代の生徒指導・キャリア教育』2013年 p122)

指摘されてみれば、日本史や世界史などの知識を動員するまでもなく、その通りということになる。しかし、これまで私の中では、ばらばらの知識の断片であった。

資料4は、昭和2年「文部省訓令」によって、初めて「職業指導」が明確にことばとして現れたこと、そして第二次世界大戦後、「高校・大学進学率の上昇」に伴い、進学指導や進路指導ということばが生まれてきたこと、また、社会が「情報化・グローバル化・少子高齢化・消費社会」などに変わってきたことに伴って、「キャリア教育」ということばが出てきたことをまとめたものである。

(3) 資料5について



資料5

「進路学習」と「キャリア教育」

○進路学習
自己理解・職業適性 → 将来就きたい職業 → 進学したい大学・学部

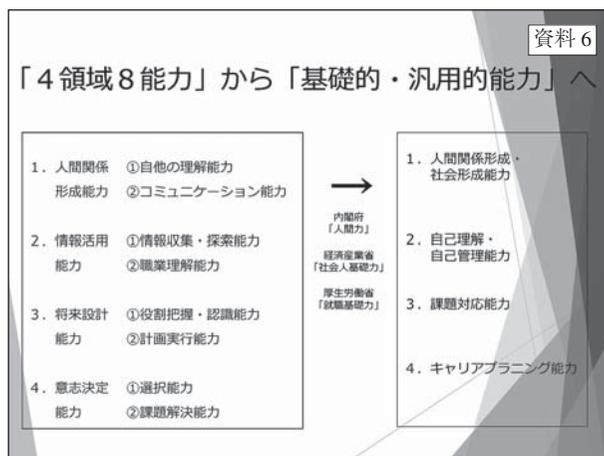
○キャリア教育の定義
一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育
(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」)

○キャリアとは
語源：中世ラテン語「車道」を起源
・人がたどる行路やその足跡、経歴、遍歴など
↓ (20世紀後半の産業構造の転換を背景に)
・働くことのかかわりを通しての個人の体験のつながりとしての生き様

人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、
自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね

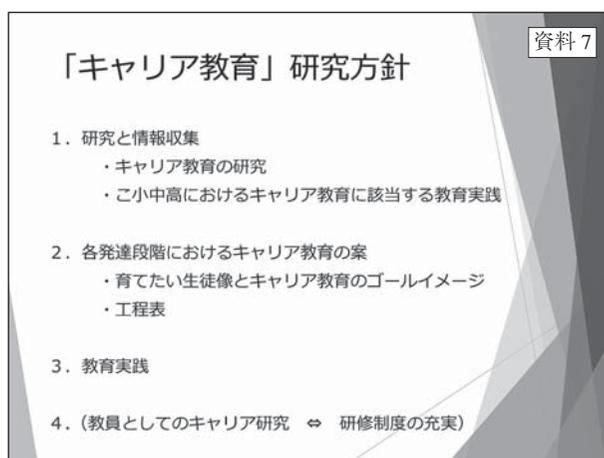
資料5は、「進路指導」と「キャリア教育」の違いをまとめたものである。現在でも、「キャリア教育」という場合、ほぼ「進路指導」と同じ意味で使われている場合がある。今言われている「キャリア」とは、従来言われてきた「進路学習」とはまったく異なる捉え方であることを確認するために作成した。

(4) 資料6について



資料6は、文部科学省がキャリア教育で求める力を「4領域8能力」から「基礎的・汎用的能力」に変えたことを示した表である。変わった理由として、ほぼ同時期に出た3つの提言、すなわち、内閣府の「人間力」、経済産業省の「社会人基礎力」、厚生労働省の「就職基礎力」との整合性の問題があったようである。大きな流れを捉えるために作成した。今後、この具体的な内容を調べたい。

(5) 資料7について



資料7は、資料1と同じく、私の研究方針をまとめたものである。研究にとどまるのではなく、実践に移していくことが大切であると考えている。

また、4. (教員としてのキャリア研究 ⇔ 研修制度の充実) については、キャリアは人間として積み上げていくものなので、なにも生徒だけでなく、我々教職員もキャリアは積んでいる。教員

の成長を考えると、必要な教員研修も見えてくるのではないかと、よりよい教師の成長が、よりよい教育、生徒のよりよい成長につながると考えた。ただし、これは将来的な視野に入れたいことなので、「()」づけにしてある。

以上、夏の全体研修会での発表を中心にまとめた。現在は、下記の進捗報告（資料8）にあるところまで進んでいる。

資料 8

2015. 12. 22→2016. 01. 26

一貫連携教育研究所

所員 表 弘之

キャリア教育について（進捗報告）

1. キャリア教育に関する情報収集

- (1) キャリア教育の歴史のプリント (前回)
- (2) 4 領域 8 能力 小中高 → 別紙 No.2
- (3) 4 領域 8 能力から基礎的・汎用的能力 対応表 → 別紙 No.3
- (4) 内閣府「人間力」平成 15 年 4 月
厚生労働省「就職基礎力」平成 18 年 1 月
経済産業省「社会人基礎力」平成 18 年 2 月 → 別紙 No.4

2. 中高のキャリア教育 整理と方針

- (1) 谷川・柴田の案を整理する。(系統性としての骨格)
 - ①今まで行われてきているものを大切にす。
 - ②本校が「大阪」の「私学」の「中等教育学校」である以上、保護者・生徒は高等教育機関にしっかり繋がること（大学進学）を強く望んでいること、また、我々も生徒の未来の可能性を広げるために、進路保障を確実にを行うことを再確認する。(教職員が安易に「理想」に流れないため)
- (2) 現在のキャリア教育の成果を、中高の教育に活かす。
 - ①「指導」に基づく「自己決定」の重視 → 記入用補助プリントの整備
 - ②「書かせる指導」を重視 → 記入用補助プリントの整備

③「働くこと」を具体的に意識させる中で、
「学ぶ意味」「働く意味」「人生の意味」を重視 → 「目標」と「目的」の分割

(3) 教職員の共通理解を作る。(日程案)

- ①分掌 (進路指導部) → 2月4日 (木)
- ②未来教育 PT → 2月17日 (水)
- ③校務運営委員会・職員会議 → 2月18日 (木)

・キャリア教育について、先生方から HP サーバーを通して意見と資料を集める。
生徒記入用のプリントや説明会などに使ったパワーポイントなど「基礎的・汎用的能力」
「4領域8能力」と中高の教育活動を関連づけてもらう

(4) 将来を見越して情報を収集していきたいもの

- ①「追大 全学生のインターンシップ」 秦副学長の取り組み

参考：公立中学校における職場体験の実施状況 96.5%

公立高等学校 ♪ 69.1%

追高でインターンシップを実施するならば、高校1年生の夏が望ましい。当然、「将来を考える日」との連動を考えるべきであるが、優先順位は低いのではないかと考えている。

この資料8にある「別紙」については、資料が大部となるので割愛する。今後は、来年度に予定されている全体研修の場で、自身の研究発表を行い、その討論をふまえて、2年間の活動記録として「追手門学院 一貫連携教育研究所紀要 第3号」に掲載したい。